

令和4年度 事業報告

事業所名	法人本部	
展望	伊賀昂会の理念の実現を目指す 【利用者の幸せ・職員の幸せ・地域の幸せ】	
基本方針	①法人事業を担う本部機能の強化 ②事業別独立採算制度の確立 ③BCPの作成 ④職員の福利厚生の充実 ⑤ウイルス感染予防対策の徹底 ⑥システム化の導入 ⑦法人本部及びグループホーム昂会一部・相談支援事業所の各事業所 移転準備	
重点目標	1.法人事業を担う本部機能の強化 <u>・全体の指示、チェック及び情報共有はできており、職員の育成、新規採用を取組み適正な職員配置を行っている。</u>	
	2.事業別独立採算制度の確立 <u>・毎月、予算執行状況の報告及び共有を行い、予算管理会議を2カ月に1度実施しているので補正等、迅速な対応が行えている。</u>	
	3.BCPの作成 <u>・BCPについては通所事業所は作成済。入所事業所については更新中。</u> <u>・自家発電機を各事業所に完備済。</u> <u>・全グループホームに非常食を完備済。</u> <u>・感染症BCPについては各事業所とも作成済(更新中)。</u>	
	4.職員の福利厚生への充実 <u>・職員のスキル向上の為、資格習得の支援を行っています。</u> <u>・年次有給休暇については、積極的に取得を促し、職員全員が有給休暇を取得しています。</u>	
	5.ウイルス感染予防対策の徹底 <u>・職員の健康管理の徹底及び手洗いの促しを行いました。</u> <u>・各事業所及び全グループホームへ非接触型体温計を設置し、PCR抗体検査キットを常備しました。</u> <u>・各事業所の食堂及び事務所にパテーションを設置しました。</u> <u>・扉のレバーや手すり等の消毒徹底。</u>	
	6.システム化の導入 <u>・太陽作業所とプレイヤード作業所にセキュリティ機器を導入しました。</u> <u>・会議についてはZOOMを取り入れ、オンラインにて会議を行っています。</u> <u>・ソフトウェアのクラウド化を取り入れています。</u> <u>・パソコンの入替を行っています。</u>	
	7.法人本部及びグループホーム昂会一部・相談支援事業所の各事業所移転準備 <u>・移転先予定地の候補地を選定しましたが、今年度の購入は中止しました。</u>	

令和4年度 事業報告

事業所名	<p style="text-align: center;">太陽作業所 就労継続B型支援(軽作業・厨房) ・ 生活介護(ひらそる)</p>	
<p style="text-align: center;">重点目標 (就労継続B型) 軽作業・厨房</p>	1.人数目標	<p>平均利用者数29名を目指す。(軽作業21名・厨房8名) ⇒<u>23.04名でした。</u></p>
	2.利用者支援	<p>一人ひとりの障がい特性、作業能力、性格を理解、把握しどんな状況でも対応できる支援を行う。 内部作業だけでなく、木工作业や外部作業も継続して行い、作業の種類、工賃の向上を行う。 社会参加プログラムが何を行っているかを明確にする。利用者が飽きてしまうこともあり、余暇から学習へ。利用者が学びたいものをリサーチし、参加者を増員する。 厨房では、外部のイベントや試食会などにも参加し、食についての興味をさらに高め、調理スキルや作法の向上を目指し、やりがいをもって頂けるように支援を行う。 ⇒<u>昨年から開始した木工作业に対する利用者の人気が高く、作業の種類に幅を持たせることができた。</u> <u>また、就労意欲がある利用者を一般就労やA型事業所に繋げることができた。</u> <u>厨房では外食の機会を設け、食についての興味をさらに高めたり、新規メニューのアイデアを得ることができた。反省点としては、内職の作業量が少ないときの代替案を十分に用意することができなかった。</u></p>
	3.防災訓練	<p>年2回の防災訓練を実施する。新型コロナウイルス感染症対策の留意点を確認・共有し、3密を避けた訓練内容を検討する。併せて消防機関等との連携協力体制の確保を図る。 そのうち1回はBCPに沿った訓練を実施する。 防災グッズの確認と持ち出しも行う。 調理時の火災に備えた対策を実施する。 ⇒<u>年2回の防災訓練は実施した。ただし、新しいAEDを使用した訓練は不十分であった。</u></p>
	4.職員育成	<p>全体・個別研修計画に沿った研修に参加し、研修内容を終礼で発表する機会を設け、一人ひとりの支援スキルアップに繋げる。 終礼の中で定期的に学習会(発達障害や自閉スペクトラム症など)を行い、根拠を持った支援ができるようにする。 管理者・サービス管理責任者は必要に応じて定期的に厨房に入り、現状確認を行う。 ⇒<u>研修自体はほぼ計画通り実施できたが、学んだ内容を十分に業務に活かせなかった。</u></p>
	5.連携強化	<p>特定相談事業所や相談支援センター・医療関係・ヘルパー事業所・学校の先生・キーパーソンの方・行政機関と協力し合い、社会資源を活用する。 法人内で話し合いを密にし、それぞれの事業所の支援を共有する。 作業所からグループホームへの発信の強化。共有フォルダーと電話を駆使した連携をとる。 ⇒<u>しっかりと連携することができた。</u></p>
	6.環境整備	<p>朝の15分間の清掃を毎日行い、すべての人が過ごしやすい環境整備を行う。アルコールで消毒を徹底し新型コロナウイルスへの感染予防に努める。また、感染した時の有事に備え、あわせて感染対策グッズの在庫確認を定期的に行う。また、感染時には速やかにBCPを発動し、職員・利用者の安全確保、サービスの継続をおこなう。 厨房では掃除や処理の時間の確保を行い、HACCPの徹底により食中毒など衛生面の強化、賞味期限切れの商品の棚卸の強化を行う。 ⇒<u>感染症予防対策は、利用者が帰った後に次亜塩素酸水の空間噴霧を毎日実施している。</u> <u>厨房については、HACCPの徹底や食中毒対策など衛生面の強化をおこなった。</u></p>

重点目標 (生活介護) ひらそる	1.人数目標	平均利用者数19名を目指す。 ⇒19.14名でした
	2.利用者支援	一人ひとりの障がい特性、作業能力、性格を理解、把握しどんな状況でも対応できる支援を行う。 選択できるプログラム作りを行い個性を生かしていく。また、作業能力、意欲がある方については、本人の希望を確認し就労継続支援B型への移行を促していく。 支援方法など、日々の情報共有を行い一緒に考え支援を統一化していく。 ⇒就労継続支援B型への移行は出来なかったが、プログラムを充実した事により、利用者が休む事はほとんどなかった。
	3.防災訓練	年2回の防災訓練を実施する。新型コロナウイルス感染症対策の留意点を確認・共有し、3密を避けた訓練内容を検討する。併せて消防機関等との連携協力体制の確保を図る。 そのうち1回はBCPに沿った訓練を実施する。 防災グッズの確認と持ち出しも行う。利用者同士のサポートも充実させる。 逃げ遅れが無いように、訓練を強化する。避難経路の確保も行う。 ⇒年2回の防災訓練は実施した。ただし、新しいAEDを使用した訓練は不十分であった。
	4. 職員育成	全体・個別研修計画に沿った研修に参加し、研修内容を終礼で発表する機会を設け、一人ひとりの支援スキルアップに繋げる。 終礼の中で定期的に学習会(発達障害や自閉スペクトラム症など)を行い、今以上に根拠を持った支援ができるようにする。 ⇒研修自体はほぼ計画通り実施できたが、学んだ内容を十分に業務に活かせなかった。
	5.連携強化	特定相談事業所や相談支援センター・医療関係・ヘルパー事業所・学校の先生・キーパーソンの方・行政機関と協力し合い、社会資源を活用する。 法人内で話し合いを密にし、それぞれの事業所の支援を共有する。 作業所からグループホームへの発信の強化。共有フォルダーと電話を駆使した連携をとる。 ⇒特定相談支援事業所を併設している事もあり、スムーズな情報共有、他事業所との連携を取ることができた。
	6.環境整備	アルコールで消毒を徹底し新型コロナウイルスへの感染予防に努める。 清掃を毎日行い、すべての人が過ごしやすい環境整備を行う。 安全第一の為に整理整頓し、事故が起こらないように片付けを徹底していく。 利用者の歩行の妨げにならないような環境作りを行う。 ⇒利用者の転倒防止や通行の妨げになりそうな箇所を整理整頓し、安全な環境作りに取り組んだ。 また、利用者が帰った後に次亜塩素酸水の空間噴霧を毎日実施した。
	7.通所事業所の共通目標	①福祉サービスに関する利用者やご家族からの相談・苦情については誠意を持って対応していく。 ⇒相談、苦情については早いレスポンスを心がけた。 ②ホームページのサイトを全面的に刷新する。多くの人に閲覧してもらうことにより、事業所の認知度を高めていく。また、興味や関心を引く魅力的なサイトを作成するため、定期的に更新しアクセス数の増加に努める。 ⇒全面的に刷新し、定期的に新着記事の更新を実施した。 ③感染症防止のための指針を定め、感染症対策委員会を立ち上げる。感染症BCPの作成や「感染症の予防及び蔓延防止のための研修」を採用時、定期的実施していく。 ⇒感染症対策委員会は今年度は立ち上げなかった。

令和4年度 事業報告

事業所名	プレイヤード作業所 (就労継続支援B型)
1.人数目標	平均利用者数46名を目指す。 ⇒ <u>人数実績は39.25名と達成出来なかった。</u> <u>就職や介護施設への移行で退所された方が(5名)と行方不明者(4名:数ヶ月後2名復帰)が出た事が影響した。</u> <u>令和5年度に向けて新規入所者2名確保出来た。</u>
2.支援目標	簡単な軽作業から高度な施設外就労まで本人の能力と希望に合った色々な作業を選べるようにする。その中で本人の目標が達成できるように就労に必要なスキルやコミュニケーションを学べる機会を提供する。能力が高まった者は、A型や一般就労へステップアップして頂けるよう支援する。皆が通いたいという事業所にするために、利用者の特性に応じた環境調整や高単価作業の営業・安定した内職獲得の営業・様々な作業を経験してもらえよう外勤先の獲得と作業量の調整を行い、平均工賃の底上げをし、利用者には選ばれる事業所となる。 ⇒ <u>作業能力に応じた支援、スキルアップして頂けるような支援という意味では成果が上がった。(就職による退所が3名いらっしやった。)</u>
3.工賃目標	毎日終日作業された方で月に2,000円～90,000円の作業を提供する。平均工賃月1万7千円を目指す。 ⇒ <u>年度平均工賃19,440円で工賃目標は達成出来た。</u>
4.防災訓練	年2回の防災訓練を実施する。新型コロナウイルス感染症対策の留意点を確認・共有する。併せて消防機関等との連携協力体制の確保を図る。外勤の企業先での避難訓練に参加させて頂いたり、その場での避難訓練をさせて頂くよう企業との連携に努める。緊急時に素早く地域で指定された避難場所に避難できるよう訓練する。AEDの利用方法や防災グッズの中身の確認を行う。また、南海トラフ大震災を意識し、地震対策訓練も実施する。事業継続計画(BCP)を活用した訓練を職員中心に行っていく ⇒ <u>年2回の防災訓練を実施した。</u> <u>AEDを用いた訓練も受けたがAEDを用いた訓練を受けていない職員に対する伝達訓練が出来なかった。</u>
5.職員育成	年間研修計画を作成し、滞りなく行われることで職員全体・個々のスキルアップを行う。日頃からの職員同士のコミュニケーションを大切に、チーム支援を実施していく。また、事業所内での教育を実施し知識やビジネスマナーを深め支援に活かしていく。虐待防止に対する意識を深めるための教育・研修を実施し、職員同士が常に注意しあう。職員が悩みやストレスを相談しやすく、楽しいと思えるような環境作りを行い、一人一人が自己実現できる職場づくりを行う。報告連絡相談確認の徹底、情報共有の強化、チームで解決していく事を心がける。 ⇒ <u>研修については年間研修計画に基づき実施した。</u> <u>報連相と情報の共有、チームで解決する事を心がける事が出来た。</u>

6.連携強化	<p>各種関係機関との連携を密に行い、本人にとって適切なサービスを提供する。法人内の連携を密にして、法人全体がチームとして支援できる体制づくりに努める。昴会祭を開催し、利用者の満足度アップと地域との交流・啓発の機会を図る。外部とのネットワークを強化し視野を広げた協力体制をつくる。</p> <p>⇒<u>特定相談やハオ、つばさ学園など関係機関との連携を行えた。</u> <u>事業所間月交代で毎月久米小学校のパトロールに参加した。</u></p>
7.環境整備	<p>誰もがここに来たいと思えるような事業所になるように景観・掃除の徹底を行っていく。また、危険物がないかどうか、備品や設備の定期点検を年2回開催し、記録する。ヒヤリハットも活用し、具体的に解決を図っていく。</p> <p>⇒<u>毎日の掃除と定期点検を実施出来た。</u> <u>ヒヤリハットを活用したり景観を損ねるテントや穴の開いた椅子の撤去、来客用スリッパの新調を行った。</u></p>

令和4年度 事業報告

事業所名	グループホーム昴会
展望	伊賀昴会の理念の実現を目指す 【利用者の幸せ・職員の幸せ・地域の幸せ】
基本方針	グループホームごとに職員と利用者が一緒に居心地の良い環境の整備を行いながら、地域に溶け込んだ事業展開を共に行っていく。
	<p>1.人数目標 ……2022年度は平均75名を必達目標とした営業活動を行う。 利用者の特性に合わせたグループホームを提案し、支援度に応じた対応ができるように整えていく。 入居待機者の獲得に向けて関係機関や精神科病院への営業活動を行い、目標以上の達成を目指す。</p> <p>⇒<u>人数実績は71.62名と達成出来なかった。</u> <u>新規利用者5名、退所利用者9名となった。</u></p>
	<p>2.利用者支援 …… 利用者目線での支援を徹底し、自己決定、自己選択、ニーズの把握、本人の強みを生かし、個々に合った支援を行う。それぞれの自立に向けた支援を行い、朝礼・終礼・全体会議・小会議などで情報共有を行い統一した支援を行う。緊急電話での緊急対応、夜間見守りを行っていく。 夜間服薬管理の周回を継続して行い、眠剤の服薬忘れ・安否確認を行っていく。</p> <p>⇒<u>現場世話人と担当世話人の目線が違い、利用者との距離のとりかたの統一ができなかった。</u> <u>全体会議を増やし、研修会の回数を増やしたことで利用者支援の底上げにつながった。</u></p>
	<p>3.防災訓練 …… 年2回の防災訓練を行う。そのうちの1回は、防災リュックの中身及び使用方法の確認もあわせて行い、わからないことや困りごとを話し合う機会とする。災害時、自分たちで各地域の避難場所へ移動できるよう緊急事態を想定した訓練を行う。更に南海トラフ大震災を意識した地震対策訓練も実施する。 又、感染症BCPの作成を行う。</p> <p>⇒<u>年2回の防災訓練を実施した。</u> <u>防災グッズ確認を利用者と一緒におこなったほうが良かった。</u> <u>各グループホームの避難場所が遠いところもあり、実際に歩いていくのが大変と予想された。</u></p>
	<p>4.職員育成 …… 年間研修計画に基づいて、外部研修への参加を積極的に行う。職員会議・全体会議・個別研修・小会議などしっかりとした情報共有を行う。 虐待研修を通じて虐待が起こらない体制を作っていく。 個別支援計画の作成時は、現場の世話人さんも個別支援会議に参加してもらい、個別支援計画の内容充実を図る。現場世話人に研修への参加を促していくと同時に常に相談しやすい職場環境づくりを行う。 朝の巡回を継続実施していく。</p> <p>⇒<u>小会議・全体会議の回数を増やし、その中で研修を実施した。</u> <u>事例検討会に現場世話人・担当世話人が参加し利用者支援のスキル向上に繋がった。</u></p>

重点目標

5.連携強化 …… 法人内の事業所間連携を図る。特定相談支援事業所を中心に、地域包括支援センター・ヘルパー事業所・病院・学校の先生・キーパーソンの方・市役所・地域・地域包括支援センター(基幹)・関係機関等と協力し合い、社会資源を活用したチームアプローチを行う。

⇒作業所や特定相談、ヘルパー・病院・他法人事業所など関係機関との連携を行えた。
高齢化した利用者の次施設へ繋げるため、関係機関との連携を行えた。

6.環境整備 …… 日頃から全職員が環境整備を心がけて、改善点があれば迅速に対策を講じる。
年間計画に基づき事業所周りを実施していく。
その他、地域の出合い等の環境整備にも職員・利用者共に積極的に参加する。

⇒グループホーム巡回で環境整備が必要な場所を点検し、その都度対応した。
グループホームの老朽化による修繕に対応した。

7.グループホームごとの目標

・ひだまり、たんぽぽ ……「入浴、洗濯、居室の掃除支援」を支援度に応じて行う。
個々に応じた生活しやすい環境を整え支援を行っていく。

⇒ひだまり 入浴介助をおこなった(人数は2名に減った)
たんぽぽ 入浴介助は無し、洗濯支援は数名。

・ふるさと荘、久米荘、千歳、桜ヶ丘荘、ほほえみ、すまいる、かがやき、すてっぷ、なごみ、丸之内、たいよう2、たいよう ……生活習慣・生活リズムを整え、健康の維持を図る。
またルールを守り、社会資源を活用しながら、集団生活・社会生活を送っていく。利用者の特性に応じた強みを引き出し、主体性を持ってもらえるよう支援を行っていく。

⇒集団生活の長い利用者さんほど、グループホームのルールが守れていない傾向にあった。

・ブルー、スカイ……アパートでのルールを守り、アパートでの生活(二人暮らし)を通じて、
・ぽぷら・けやき 自立に向けた支援をしていく

⇒アパート自立型の目標について、できている利用者・できていない利用者の違いがあった。

・サテライト型住居わかば …… 自立度をさらに高め、一人暮らしが出来る力をつけてもらう。

⇒サテライトを卒業し、1人暮らしの目標を達成できた。

令和4年度 事業報告

事業所名	相談支援事業所すばる
展望	伊賀帛会の理念の実現を目指す 【利用者の幸せ・職員の幸せ・地域の幸せ】
基本方針	障がいのある方が福祉サービス等を利用して、 地域で“自分らしく”暮らせるよう支援する。
重点目標	<p>1. 人数目標 …… 令和4年度中に125名(実績)の契約を行う。</p> <p>→ <u>117名の方と契約させていただきました。目標には届きませんでした。</u></p> <p>2. 利用者支援 …… 利用者さんの希望するニーズを中心に考える。 地域生活を過ごす上で利用者さんやご家族が何に 困っているのかを理解し福祉サービスに繋げる。 相談しやすい環境・関係を築く。</p> <p>→ <u>ご家族との連絡を密にすることを心がけました</u> → <u>利用者さんの気持ちに寄り添い、モニタリングすることを心がけました。</u></p> <p>3. 職員育成 …… 伊賀帛会の研修計画に沿った研修、及び外部の 研修にも積極的に参加し、相談スキルを上げる。 福祉だけでなく介護分野や教育分野の支援や サービスを知る。また、3障害の他難病や加齢による 疾病等を学ぶ事例検討会に参加していく。</p> <p>→ <u>研修プロジェクトに参加し、様々な研修(案)を提案しました。</u> → <u>事業所内だけでなく相談部会の事例検討会にも積極的に参加しました。</u></p> <p>4. 連携強化 …… 伊賀帛会の全事業所、他法人の事業所、園 各市町障がい福祉課・障がい者相談支援センター、 地域生活定着支援センター、医療機関、ご家族、 学校、地域の方等、あらゆる関係機関と密に連絡を 取り、信頼関係を築く。</p> <p>→ <u>暮らし部会のワーキングリーダーを務めさせていただきました。</u> <u>大学の先生とも協同で作業を進めることができました。</u></p> <p>5. 環境整備 …… 公用車内の清掃、洗車を行う。 個人情報の管理を徹底する。 感染症BCPをバージョンアップしていく</p> <p>→ <u>定期的に洗車はできませんでした。</u> → <u>個人情報の管理は徹底いたしました。</u></p>